

24年度第1四半期は4.1%減

日合協
東北連合会
東北6県アスファルト合材製造量

日本アスファルト合材協会（日合協）東北連合会（野口典秀会長）がまとめた2024年度第1四半期（4～6月）のアスファルト合材製造量は新規と再生を合わせ81・0万トとなり、前年同期の実績を4・1%下回った。新規合材は26・2万ト（前年同期比5・2%増）、再生合材は54・8万ト（8・1%減）だった。

同連合会によると、公共工事関連の需要動向は「国土強靱化を踏まえた河川や橋梁などの改修、補強が最優先で路面補修などの優先

度が低い状況にある」という。東北地区はアスファルトの供給先が「70～80%ほど公共工事に依存しているため発注減が大きく影響している」状況にある。合材プラントは22年度に3カ所、23年度に2カ所が統合・廃止になっており、大災害が発生した場合「緊急対応に支障が出かねない」としている。

県別の製造量は▽青森13・4万ト（28・8%増）▽岩手11・6万ト（4・1%減）▽宮城18・1万ト（11・3%減）▽秋田9・5万

ト（5・9%減）▽山形9・2万ト（10・7%減）▽福島19・2万ト（9・4%減）。青森は前年同期の製造量が大きく減ったことによる反動増が主因で、他の5県は前年同期を下回った。新規合材の製造量が増えているのは高速道路や空港の修繕工事向けで、一般工事に多く使用される再生合材は減少が続いている。

今後について同連合会は「各県の道路損傷は進んでおり、早期の予算化が必要と思われる。資材や電力費の高騰、運搬費など経費の増加で各プラントの経営は悪化しており合材単価へのコスト転嫁が必要な状況にある」と、業界の窮状を訴えている。

